

2018年（平成30年）2月14日 水曜日（仏滅）

日刊工業新聞

総合ガイド

ログイン

ニュース

動画

特集・連載

マイページ

機械 ロボット ICT エレクトロニクス 自動車・輸送機 化学・金属・繊維 環境・エネルギー 医療・健康・食品 建設・住宅・生活
商社・流通・サービス 政治・経済 金融・商況 地域経済 中小・ベンチャー 科学技術・大学 人物 オピニオン トピックス 新製品 その他
特集・広告 企業リリース 人事・機構改革 マイニュース マイクリップ 電子版オリジナル連載・特集

トップ トピックスニュース 記事詳細

[トピックス] 大阪ガス IoT ガスコージェネレーション エネファーム

進むIoT利用（４５）大阪ガス 「エネファーム」の付加価値高める

ツイート シェア0 LINEで送る

(2018/2/8 05:00)



IoTに対応した省エネ給湯器「エコジョーズ」用のスマホのアプリ画面と台所リモコン

大阪ガスは家庭向けのガス機器のIoT（モノのインターネット）化を進めている。家庭向けは、いち早く遠隔監視を始めている業務・産業用のガスコージェネレーションに比べ、コストが合わず、これまでIoT化は一步遅れていた。

そこで第1弾として、2016年4月にIoT対応の家庭用燃料電池「エネファーム」を発売した。エネファームは一戸建て住宅中心に普及。販売は、17年8月時点で累計7万台を突破した。現在、約8割がインターネットに接続している。エネファームについては、10年間フルメンテナンスサポートし、故障修理を無償で提供している。そのため、現場作業時間や訪問回数の削減を図る目的で、IoTに対応させた。

また、17年10月にはIoT対応の省エネ給湯器「エコジョーズ」を発売した。エコジョーズは年間約6万台を販売してきた。今後、IoT対応のエコジョーズを、年間1万5000台販売する計画だ。

IoT化は、大阪ガスにメリットがあっても、ガス機器の利用者が便利だと思わなければ普及は進まない。そこで、エネファームでは、発電見守りサービスや風呂・床暖房の遠隔操作、省エネナビゲーションなどの付加価値サービスを充実させている。

エコジョーズは、これらの機能に、スマートフォン専用アプリ（応用ソフト）による入浴見守りやヘルスケア管理など安心・快適サービスを追加。さらに、「人工知能（AI）」を活用した故障などの予兆管理も視野にある」（本荘武宏社長）。

大阪ガスは、顧客の声やIoT対応により取得したビッグデータを収集。大阪ガスグループのデータ分析で、現場の業務改善を担う専門組織と連携し、収集した故障データから故障原因を自動解析する。そして今後の機能やサービスの追加・改善に生かそうとしている。

一方、他社との連携も推進。マンション管理、防犯、防災、AIスピーカー、生活家電などつなげ、音声認識機能など各種サービスの可能性を模索していく。（大阪・香西貴之）

(2018/2/8 05:00)

ツイート シェア0 LINEで送る

マイクリップ登録する

紙面イメージで見る

記事を利用する

前へ

一覧を見る >

あわせて読みたい

第13回企業カランキング／トヨタ、4年連続首位 車3社「存在感」示す第13回企業カランキング／トヨタ、4年連続首

ようこそ、
jpabscmrnews@abeam.com
(ログイン中)

[ログアウト]

マイページ マイニュース マイ

電子版からのお知らせ

日刊工業新聞社からのお知らせ

最近あなたが読んだ記事

2018/02/08
インタビュー／ヤマザキマザック社
智久氏「デジタル製造でリードタ

しっかり守る。すっきり

機器から保守までワンストップの三菱電機セ



カレンダーから探す

1月							2018年02月 ▼
	日	月	火	水	木	金	
					1	2	
4	5	6	7	8	9	10	
11	12	13	14	15	16	17	
18	19	20	21	22	23	24	
25	26	27	28				

今日の紙面PDF



2月1
の紙
PDF